

医療現場から見える健康の社会的決定要因

科目責任者：原 田 侑 典（総合診療医学）

I. 前文

世の中には様々な人がいる。定期的に通院した方が良いと何度言われても夜間の救急外来にしか受診しない人、どうしてこうなるまで放っておいたのかというほど重篤な状態で受診する人、息苦しさを何とかして欲しいと言って緊急受診しながらもタバコを吸い続ける人、台風による暴風雨の最中に1か月前からの食欲低下の原因を調べて欲しいと受診する人、処方した薬がいつも途中でなくなってしまう人、薬を処方しても全く飲まない人、特定の薬の処方や検査を執拗に希望する人、とにかく1日で治してくれという人、入院が必要と言われても断固として入院しようとししない人など、医療機関では実に様々な人との出会いがある。このような、一見すると不思議な行動、合理的でない行動をする人は、教科書通りの標準的な医療の実践に沿わない「困った患者」として捉えられやすく、標準的な治療で「とりあえず病気は良くなった」状態にはなるものの、いずれさらに重大な病気になって医療機関を受診することになることが多い。

どうしてこの人たちはこうなったんだろう？このような疑問を感じたら、普段の生活のことを聞いてみよう。実はお金がなくて受診できないのかもしれない。平日に仕事を休むとクビを切られるのかもしれないし、日雇いだから休むと生活費が1日分なくなるのかもしれない。子育てや介護で自身のことに気を回す時間がないのかもしれない。タバコや大量飲酒や食べ過ぎが健康に悪いことを知らないのかもしれない。入院したら家のネコやイヌが飢え死にするが、世話を頼める友人がいないのかもしれない。その結果としてこの人たちは健康を損なってしまったのだとしたら、所得、教育歴、居住環境、人間関係、労働環境など、社会経済的状況は健康状態を左右する重要な要因である（健康の社会的決定要因）。よって、患者の病いを深く理解して対応できる医療者になるために、疾患の病態生理や遺伝学的生物学的知識だけでなく、健康の社会的決定要因についての知識を身に着ける意義は大きい。

本科目では、座学と演習を交えて健康の社会的決定要因の概念とその具体的な項目の理解を深めていく。それぞれの回では健康の社会的決定要因に関する様々なテーマを1つずつ扱い、全6回で全体像が把握できるように構成されている。「社会・環境と健康」という大きな視点が必要な分野ではあるが、実際の医療現場での目線を重視した内容とする点が本科目の特徴である。健康の社会的決定要因を意識できるようになると、医療現場で出会う様々な人のそれぞれの「生きがい」や「生きづらさ」に気づくことができるようになり、幅広い視野を持った医療人になることができると期待する。健康の社会的決定要因への取り組みに対して日本の中でも先進的な取り組みを始めている栃木県にある獨協医科大学だからこその授業がここにある。

II. 受入可能人数

若干名

III. 担当教員

原 田 侑 典（総合診療医学）、大 高 由 美（総合診療医学）

IV. 学習内容

<実施スケジュール>

- 第1回：座学 せっかく治療した人を、そもそも病気にした状況になぜ送り返すのか ～健康の社会的決定要因とは～
- 第2回：座学・演習 社会的な健康度合いを評価しよう ～社会的バイタルサインの測り方～
- 第3回：座学・演習 「困った」患者は困っている？ ～医療の現場で何が起きているか～
- 第4回：座学・演習 薬や手術だけが治療じゃない?! ～社会的処方という治療法～
- 第5回：座学・演習 評価と価値は違うんです ～スティグマという問題～
- 第6回：座学・演習 健康格差を乗り越える ～疾病の上流にあるものを診る医師になる～

<授業の進め方>

授業は全6回で構成され、1回毎に完結する小テーマに分かれている。第1回のみ座学形式とし、第2回から第6回では前半に座学で各テーマについての概要を学び、後半はグループに分かれて机上シミュレーションによる演習を行い、各テーマについての理解を深める形式とする。

<求められる自主学習>

事前学習および事後学習は必須ではないが、興味を持った学生が自主学習できるように教材を提示する。また、さらに興味を持った学生に対しては現場で健康の社会的決定要因への対応に取り組んでいる医療従事者や施設等を紹介する。

V. 学修の到達目標

- ・健康の社会的決定要因について具体的に説明することができる
- ・健康の社会的決定要因が及ぼす健康への影響について具体的に説明することができる
- ・個別の患者における健康の社会的決定要因を把握する方法について具体的に説明することができる
- ・スティグマについて具体的に説明することができる
- ・社会的処方について具体的に説明することができる

VI. 成績評価の方法・基準

授業中に提示するテーマに関するレポートによって成績を評価する。レポートの評価の基準は、健康の社会的決定要因に関して理解できているか、「医療現場から見える健康の社会的決定要因」についての独自の意見を論理的に述べているか、誤字脱字がないか、適切な引用ができていないか、レポートとしての体裁が整っているか、提出締め切りを守ることができているか、を中心に総合的に評価する。

VII. 使用する教材・資料など

使用する資料は担当教員が作成して授業中および事前/事後に配布する。

また、下に挙げる4点を入門資料として紹介する。

更に詳しい参考資料については授業中に紹介するとともに、希望者に対しては個別に紹介する。

①なぜ君は病に… ～社会的処方 医師たちの挑戦～

<https://www.shimotsuke.co.jp/feature/social-prescription/>

下野新聞の連載企画。栃木県内での取材をもとに、健康の社会的決定要因が健康を蝕む様子が具体的に感じられ、現場でどのような取り組みが行われているかについても知ることができる。

②「●●はタバコと同じくらい健康によくない? : 健康の社会的決定要因 (SDH) を知ろう」—第11回東大院生によるミニレクチャプログラム

https://www.youtube.com/watch?v=1VXPG_hx4jk&fbclid=IwAR2erYopLWusmQ9SkXzhid746dF26E9y-vuo0XvuQ1-oE_DXcVnUZQZdR1k

健康の社会的決定要因について分かりやすく解説されている。入門編として。

③近藤克則「社会経済的要因による健康格差」(CCI28)

<https://www.youtube.com/watch?v=vPKcorJpEi8>

日本におけるこの分野の第一人者による講義。②の後に見ると良い。

④イチローカワチ (2013) 命の格差は止められるか: ハーバード日本人教授の、世界が注目する授業 小学館

社会の中の格差がどのように健康に影響を与えるのかについて、分かりやすく説明されている。

VIII. 質問への対応方法

①LMSを用いて質問に対して回答

②事前にメール、LMS、電話のいずれかでアポイントを取得した上で直接面談

メールアドレス：yharada@dokkyomed.ac.jp

内線番号：7289

訪ねるべき部屋の場所：臨床医学棟5階総合診療医学講座スタッフルーム

対応可能な曜日、時間帯：月曜以外の平日、事前にアポイントを取得して時間帯を指定

IX. 求められる事前学習、事後学習

事前学習：基本的に不要だが、参考資料①-③は計1時間程度で視聴できる

事後学習：レポートを作成すること。作成のために最大5時間程度要することを想定する

X. コアカリ記号・番号

B 社会と医学・医療

B-1 集団に対する医療

B-1-6) 社会・環境と健康

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

レポートに対しては個別のコメントをつけて返却してフィードバックする。学生が希望する場合は直接ディスカッションすることも検討する。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	○

社 会 的 視 野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	◎
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人 間 性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎